

事業コード	H16-建-新-22			区 分	国庫補助・県単独
事業名	重要港湾改修事業			部 局 名	建設交通部
事業種別	臨港道路			課 室 班 名	港湾空港課港湾班 (tel) 2544
路線名等	能代港			担当課長名	佐藤 康彦
箇所名	能代港大森地区 大森橋			担当者名	貝田 裕
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備	
	施策コード	2	施策名	環日本海交流活動を支える物流ネットワークの整備	
	目標コード	1	施策目標名	秋田・能代・船川港取扱貨物量	

1. 事業の概要

事業期間	H17~H18(2年)	総事業費	3.0億円	国庫補助率	5/10		
事業規模	橋梁(改良)橋長L=24.5m 幅員W=9.0m (2.0-0.5-6.0-0.5)						
事業の立案に至る背景	<p>大森橋は、能代港の物流拠点となる大森地区と能代市街地を結ぶ臨港道路下浜線として、昭和53年3月に竣工した一等橋である。</p> <p>本橋の1日交通量は約4千台で地域の重要路線となっているが、近年、老朽化が著しく上部工及び下部工に多くのひび割れが発生していたため、平成14~15年度に破損状況の調査を実施した。その結果、塩害による劣化が著しく進行しており、緊急な対策が必要であることが判明した。</p>						
事業目的	<p>既存道路施設の機能確保 物流ネットワークの構築(能代港~能代中心市街地) 道路の防災対策・危機管理の充実(耐震補強)</p>						
事業費内訳	(単位:千円)						
事業内容		全体	H17年度	H18年度	H 年度	H 年度以降	
	事業費	300,000	250,000	50,000			
	経費内訳	工事費	300,000	250,000	50,000		
		用補費					
		その他					
	財源内訳	国庫補助	150,000	125,000	25,000		
		県債	121,000	101,000	20,000		
その他		15,000	12,500	2,500			
一般財源		14,000	11,500	2,500			
事業内容	橋梁架替 L=24.5m	下部工 2基 取付護岸工	上部工 24.5m				
調査経緯	<p>平成14年度 現橋調査(上部工、下部工水上部)</p> <p>平成15年度 現橋調査(下部工水中部) 劣化原因検討</p> <p>平成16年度 対策工法の検討</p>						
上位計画での位置付け	<p>能代港港湾計画(平成4年8月)で既設臨港道路として位置付け</p> <p>あきた21総合計画における施策「環日本海交流活動を支える物流ネットワークの整備」を支援する事業</p>						
関連プロジェクト等	能代港多目的国際ターミナル(供用開始H13年度)						
事業を取り巻く情勢の変化	<p>能代港での取扱貨物量の急増(H12年2,752千ト H15年3,226千ト +17%)</p> <p>北部ICとの連携を図る、静脈物流拠点港の要請</p> <p>プレジャーボート暫定係留の増加(H5年192隻 H15年296隻)などによる港湾一般来訪者の増加</p> <p>通過交通量の増大が見込まれるが、現橋の耐荷力では安全の確保が出来ない。</p>						
事業効果把握の手法	指標名	能代港取扱貨物量			データ等の出典	秋田県港湾統計年報	
	指標の種類	成果指標	業績指標				
	指標式	能代港での年間取扱貨物量					
	目標値 a	4,500千トン(H18年)					
	実績値 b	3,226千トン(H15年)					
達成率 b/a	71.7%				把握の時期	H16年4月	

2. 所管課の1次評価

(能代港大森 地区)

観 点	評価の内容 (特記事項)	評価点
必 要 性	既存橋梁の改良であり、前後の臨港道路の機能を確保するためには代替性がない。 現在、1日の通過交通量は約4千台となっているが、現橋の耐荷力では安全の確保が出来ない。 本橋梁は、港湾管理者である秋田県が安全を確保する義務がある。	30点
緊 急 性	これまでの調査により、劣化進行が加速期にあり、早急に対策が必要であることが判明している。 港湾取扱貨物量の急増などから、交通量の増大が見込まれるため、港湾と背後市街地間の円滑な交通を確保することが求められている。	20点
有 効 性	あきた21総合計画における能代港の将来貨物量を効果指標とする。 橋梁改良を実施しない場合、利用車両は約4km迂回をする必要が生じ、能代市街地の混雑度1.36に影響を与える。	16点
効 率 性	事業の費用便益比は12.9と高く、効率性は高い。 ・総費用は現在価値 4.34億円 ・総便益は現在価値 56.01億円 事業費は、既存橋梁を補強・補修に比べ、新橋架替が1億円25%のコスト縮減が可能である。	20点
熟 度	現橋の損傷度の把握を終了しており、対策工法を現在検討中である。 既存施設の機能確保であり、関係者との合意形成の障害はない。	8点
判 定	ランク (○) 「必要性」や「緊急性」・「効率性」が特に高い点数となっており、利用者の安全・安心の向上や港湾機能の強化の面でも有効な事業箇所であり、実施すべきと考える。	94点
総合評価	<p>選定 改善して選定 保留</p> <p>各観点の評価結果から、事業実施箇所としての優先度が高く、事業を実施すべきと考える。</p>	

3. 総合政策課長の2次評価

4. 財政課長意見

総合評価	<p>選定 改善して選定 保留</p> <p>海岸部の橋梁であるため橋脚の腐食が著しく、ひび割れ、鉄筋の露出や断面欠損などが見られるなど、塩害による劣化が著しく進行している。このため、当該橋梁の架け替えを行うものであるが、その整備にあたっては、整備方法の比較検討やコストの削減にも取り組んでおり、事業実施は妥当と考える。</p>	意見内容	<p>選定 改善して選定 保留</p> <p>設備の劣化状態が著しいため改良が必要であり、整備方法の検討を踏まえ橋梁の架け替えを行うものであり、事業の実施は妥当と考える。</p>
------	--	------	---

5. 最終評価 (新規箇所選定会議)

総合評価	<p>選定 改善して選定 保留</p> <p>事業実施して妥当である。</p>
------	---

6. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

<ul style="list-style-type: none"> ・当該箇所を国に新規要望する。 ・事業実施に当たっては、コスト縮減に努める。

7. 公共事業評価専門委員会意見

<p>県の評価および対応方針を可とする。</p>

別表6 (29)

公共事業箇所評価基準

評価種別 **新規箇所** ・ 継続箇所 事業コード (H16 - 建 - 新 - 22) 箇所名 (能代港 大森橋)

適用事業名 **港湾事業**

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	事業の必要性					
	代替手段の有無	手段に代替性がなく妥当である 手段には代替性がないが改善の余地がある 他の手段と比較検討の余地がある	10 5 3	10	既設橋梁の改良であり、前後の臨港道路を活用するためには、代替性がない	
	現状の課題把握とニーズの適合性	港湾事業に対するヒアリング等で具体的な県民、港湾利用者のニーズを把握しており、ニーズが高い事業である 港湾事業に対するヒアリング等で具体的な県民、港湾利用者のニーズを把握しており、ニーズはある 港湾事業に対するヒアリング等で具体的な県民、港湾利用者のニーズを把握しているが、一部のニーズである 県民、港湾利用者のニーズが把握されていない	15 10 5 0			15
	県関与の必要性	法令等で県が実施する事業 県が実施すべき広域的な事業 県が実施した方が望ましい事業	5 3 1	5	施設管理者が秋田県知事であり 県が実施する義務がある	
	計		30			30
	緊急性	事業未実施の影響				
		事業未実施の影響	事業効果や効率性の影響等が大きい 事業効果や効率性の影響等は小さいが事業実施の好機である 事業効果や効率性の影響等が小さい	12 8 4	12	橋梁が利用できない場合、4km迂回が必要で、利用車両への影響が大きい
他事業との関連						
他事業との関連		他事業と関連しており、緊急性が高い 他事業と関連しているが緊急性は低い 他事業との関連はない	8 4 0	8	大森地区多目的国際ターミナルと関連し緊急性が高い	
計			20			20
有効性	期待される効果					
	地域経済の活性化、港の利活用からの効果	効果にかかる指標を設定し、定量的な把握をしている 効果について定性的な把握をしている 事業実施による効果が把握されていない	12 6 0	12	港湾計画貨物量による	
	上位計画への貢献度					
	秋田21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標に貢献しない	8 4 2	4	能代港の取扱貨物量確保に、間接的に貢献する	
	計		20			16
効率性	費用対効果					
	費用便益分析(B/C)	2.0 B/C 1.0 B/C < 2.0 B/C < 1.0	12 10 0	12	B/C=12.9	
	事業実施コストの縮減					
	コスト縮減の検討状況	十分なコスト縮減が図られている コスト縮減が不十分であり、今後さらに検討する必要がある コスト縮減が図られていない	8 4 0	8	橋梁架替を検討中 既存橋梁の補修より、約1億円25%のコスト縮減が図られる	
	計		20			20
熟度	合意形成の状況					
	周辺市町村から県、国等への要望の有無	有 無	2 0	2	能代市と調整を図っている	
	同盟会・協議会等が設立、要望活動の有無	有 無	2 0			2
	地元住民による反対運動の有無	有 無	0 2	2		
	輸送機関、漁業、港湾関係企業等の調整	調整済み、順調に調整中 未調整	2 0			2
	その他の協力体制の有無	有 無	2 0	0		
	計		10			8
合計			100	94		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上	94	
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		